

日本語プロフィシエンシー研究学会・日本語音声コミュニケーション学会 第2回合同大会
(通称「おもしろうて やがて非流ちょうな 京の午後」)

日時：2019年10月5日(土) 13時～17時(開場12時)

会場：京都大学文学研究科2階 第7講義室 (606-8501 京都市左京区吉田本町)

アクセス：<https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/about/access/>

道案内：<http://www.speech-data.jp/nihonsei/michi20191005.html>

プログラム(暫定)：

12:00 受付開始

13:00-13:05 開会の辞

13:05-14:45 研究発表

「日本語学習者のおもしろい話はおもしろいのか」

アンディニ・プトリ(金沢大学大学院)・松田真希子(金沢大学)

「自立語がない「寄り添い」発話」

定延利之(京都大学)

「発話末にみる日本語母語話者の非流ちょう性

(日本語学習用教科書にない中途終了発話)」

伊藤亜紀(名古屋大学大学院)

「フランス語の談話標識と非流暢性時—インタラクティブな

コンテキストに応じて拡大する用法、その学習への示唆」

秋廣尚恵(東京外国語大学)

14:45-15:00 休憩

15:00-16:55 シンポジウム「文末満の非流ちょう性」

15:00-15:20 趣旨説明 定延利之

15:20-16:20 講演 ロコバント靖子&エルンスト・ロコバント

16:20-16:55 ディスカッション コメントータ 林良子

16:55-17:00 閉会の辞

17:15- 懇親会 ブーガルーカフェ(boogaloo café) 百万遍店 ¥4,300

(ディスカッション「この「面白い話」はセーフ? アウト?」

司会：宿利由希子(京都精華大学))

シンポジウムのご案内：Robin J. Lickley (2015)の概説論文”Fluency and Disfluency”にもあるように、母語話者の非流ちょう性と学習者の非流ちょう性、そして病理的な非流ちょう性は、それぞれ違っており、また、つながっています。言語学は近年、「母語話者はよどみなく流ちょうに話すもの」という前提をようやく見直し、母語話者のことばが非流ちょう性に溢れていることを認め始めています。また、日本語教育においても、学習者をアナウンサーに仕立て上げようとするような発話指導に対して批判的な目が向けられ始めています。非流ちょう性は撲滅すべきものではなく、うまく付き合っていくべきものではないでしょうか。エルンスト・ロコバント先生とロコバント靖子先生、つまり『夫はバイリンガル失語症 日本語教師が綴る闘病と回復の五年間』（大修館書店）の、あの「夫」と「日本語教師」をお招きして、文末満のカタコト発話（語発話や文節発話など）をテーマにお話しいただき、非流ちょう性について理解を深めたいと思います。懇親会もぜひ！ご参加ください。（世話人・定延記）

参加費：下記の学会， 科研の関係者は無料。外部参加者は資料代 500 円をいただきます。

参加方法：集会事務局(kyoto20191005@yahoo.co.jp)に「会議」「懇親会」の2点を連絡してください。台風などによる中止の際はそのメールアドレスにご連絡します。

主催：

日本語プロフィシエンシー研究学会 <http://proficiency.jp/>

日本語音声コミュニケーション学会 <http://www.speech-data.jp/nihonsei/index.html>

科研プロジェクト「対話合成実験に基づく、話の面白さが生きる「間」の研究」
http://www.speech-data.jp/kaken_ma/